

平成27年度青年漁業士養成講座

水産海洋技術センター 牧野清人

平成27年8月27日、水産海洋技術センター会議室において、青年漁業士養成講座が開催された。今年度は4漁協、4市村より4名が青年漁業士候補として推薦されており、恩納村漁業協同組合員の又吉直樹氏、沖縄市漁業協同組合員の金城豊氏、那覇市沿岸漁業協同組合員の浦広満氏、知念漁業協同組合員の仲里真吾氏が受講した。講座内容は以下の通りであった。

1. 漁業士制度と水産業改良普及事業について 水産海洋技術センター 普及班長 久保弘文

県内の水産物生産量生産額の推移を見て行くと、全体の数量は昭和47年復帰当時に比べ大きく減少しており、その中でモズク養殖やクルマエビ養殖、ソデイカ漁等、漁業種類により大きく増加しているものもある。また、水産物の単価は当時に比べ高騰しており、生産金額はかつてと比べ増加傾向にあり、農業等と比べると漁業者の個別所得は大きい。漁業者の高齢化、減少は沖縄県内でも進んでおり、今後新たな漁業者の参入が課題となっている。こうした中で県の水産業振興策にも積極的に参加し、儲かる漁業を実践して地域のリーダーとして後継者を育成することが漁業士に期待される役割である。沖縄県には10名の水産業普及指導員が現場（漁業者）と県の各機関とのパイプ役として機能し、漁業士はこれと連携し各地で水産に携わるグループを指導してゆくことが重要である。

2. 指導漁業士講話

沖縄県漁業士会 新垣哲二指導漁業士

これまで県が推進してきたメカジキ漁ならびに流通販売に関わっており、漁場はある程度把握できてきた。相場は県外市場で以前は1,000

円以下であったが、近年気仙沼、築地、名古屋で取引されており、1,100円～1,300円を付ける高値となっている。また、県内消費促進のため、糸満市の南部海づくり大会においてPR活動を行っている。また、現在沖縄近海でキンメダイ漁場探索と流通調査を行っており、大陸棚近くの久米島近海や伊平屋北西の曾根に漁場がある可能性を見いだしている。その他、深海ザメやヌタウナギ、ケンサキイカ等未利用資源が眠っている可能性についての調査を県と連携して予定しており、今回の候補者の皆さんが漁業士になられた際には是非一緒にできればと考える。

3. モズク種の可能性について

水産海洋技術センター海洋資源増殖班
主任研究員 岩井憲司

モズク養殖業は県の基幹産業となっており、全国の90%以上を占める生産量となっているが、現在その安定生産や品質の向上が課題となっている。そこで、県では地域によってその形質に特性がある株を選択し、親の形質が次世代に受け継がれることを解明した。この中の数種が生産面や加工面から現場で高い評価を受けているが、その他の株でも優れた特徴を表す可能性がある。これらの有望株どうしで有性生殖を行う種Nを取り出し掛合わせることで安定生産、安定品質を実現できるハイブリッドを生み出す可能性について試験研究に取り組んでいる。



青年漁業士養成講座



養成講座を受講した漁業者(右から又吉直樹氏、
仲里真吾氏、金城豊氏、浦広満氏)



新垣指導漁業士による講話